

睡眠をたっぷりする。そうすると健康美人になる。土木は健康美人を目指したらどうかというのが一つ。最後に「心美人」というのは、土木構造物は何のために造るのかという思想とか哲学、自分の考え方そのものが形振り、立ち居振る舞いに現れてきますよ。それが心美人です。これを土木の3Kと呼ばずに、美人の3Kと言うわけです。

そういう観点で、われわれ土木技術者はどう考えていかねばならないのか、あるいは考え合う場を創ろうというのがこのFCCだったんです。こういう問題は永遠に続くでしょうね。それを時間をかけて議論し合う場が大事であるし、世代を超えて、世代を繋げてやっていくことが大事じゃないかなと思います。

#### ◇FCC活動で身についたこと

池亀 FCCに建設業界から中堅の人をほしいと要請があって、突然会社の方から「ようわからん活動やけど、行ってこい。」って言われてやってきました。そこで、いきなり「内なる啓蒙」って、ど〜んと課題が与えられた。どうしたらいいか、個人として考え、主張する。多くの仲間がいて、それぞれが結論が見えないものを考えていくという訓練を知らず知らずに続けていた。土木だけでなく、自分の状況についても懸命に考えるということと、ちゃんと議論をすれば、いろんなことがわかるということが、この活動を通じて非常に身についてきた。それはすごく役に立ちました。



池亀建治 氏

#### ◇10年一区切り

河田 私たちにはこの10年で暗黙知が随分ついたんですよ。いわゆるノウハウというものがね。それを会員相互の共有財産にする、形式知にするという努力をシンポジウムとか、フォーラムとかやったけれども、ごく狭い範囲の共有財産として止まっていたよね。若い人に引き継いでもらおうと思って、僕たち長老4人が強制的にやめたじゃない。僕はこれによかったと思うんだよね。なぜかっていうと、時代を反映した活動をやるべきで、中心の人が世代交代するというのは大変大事なんだ。10年間というのは非常に貴重な単位だと思うんです。少なくとも10年あれば、個人としても非常にいいものが残る。それが土木学会関西支部の財産として、一つはこのFCCがあるけれども、ブックレット(全28冊)を一冊づつ読んでいただくと、その当時われわれが真剣に何を考えておったかというのが赤裸々に書かれている。これからもFCCの活動を続けていくのであれば、ぜひ会員共有の知

恵の財産として残っていくような仕組みづくりが大事になってくると思うんです。当時と較べて、今はインターネットはあるし、メディアのパラエティさは全然違うしね。僕たちのときはこんな冊子で残すしかなかったんでね。

#### ◇FCCの基本

西田 池亀さんは、阪神・淡路大震災の直後、復旧復興事業の一番大変な中で、リーダーになっちゃいましたよね。会社をクビになるんじゃないかと周りが心配したぐらい積極的に動いて、震災の年にロサンゼルスへみんなで行って、シンポジウムまでやった。それができたというのは、当時のFCCにパワーがあったんだと思うんですね。



西田純二 氏

池亀 あのときは連絡もとりあえないような状態でやりましたね。でも、土木学会では、あれだけいろんなことを議論していたのに、大震災の後、土木界として何も言わずにこの時を見過ごすのかという働きかけをしたんです。それから、河田先生がご専門だったことも非常に大きく影響したんですけど。僕自身はあの状況の中で、僕たちが何も発言せずに過ごしてはいけないというのがエネルギーの源、行動の原点になっていたわけです。

隅野 池亀さんだけじゃなくて、「会社の仕事よりも面白い。FCCへ来ると自分でいろんなことができる。」というようなメンバーが7~8割はいたような気がします。

河田 自分流でやってたんだね。組織的にというよりも、自分流にやったやつをどうまとめようかというのがいつもの視点だよね。だから長続きしてると思うんだ。やった人には非常にいい財産になってる。それと、強気だったよね。核になるのは自分だから。自分がどう動けるかっていうのがやっぱりいろんなところで問われているわけでしょう。大きな仕事するときにはそれがないとできないんだよね。

西田 土木って大きな組織でいろんなものをつくっていくんですけど、組織の規範に押し込まれるよりも、自分がやりたいことや自分の意見をはっきり言える、そういう思想がFCCにはありましたよね。

隅野 恐らく、あの当時に流行ってた言葉の「自分探し」をやってたんだと思うよ。その場をFCCが提供した。自分はなぜ土木技術者なんだ。土木技術者として、この会社、あるいは、この役所でどう動いていくのかという。組織の中で自分らしさが発揮できていないという思いこみが、くそ生意気な気持ちにさせるところがあるじゃない。

池亀 そのことは大変重要で、土木界以外でも大企業とか